

中小企業景気動向調査

〔2014年1～3月期の景況 / 4～6月期の予想〕

【調査要項】

実施期間:2014年2月24日～3月10日

調査対象:県内の当金庫のお取引先 989社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	429	136	72	30	152	41	37	92	989
回答数	366	117	62	26	137	38	33	81	860
回答率(%)	85.3	86.0	86.1	86.7	90.1	92.7	89.2	88.0	87.0



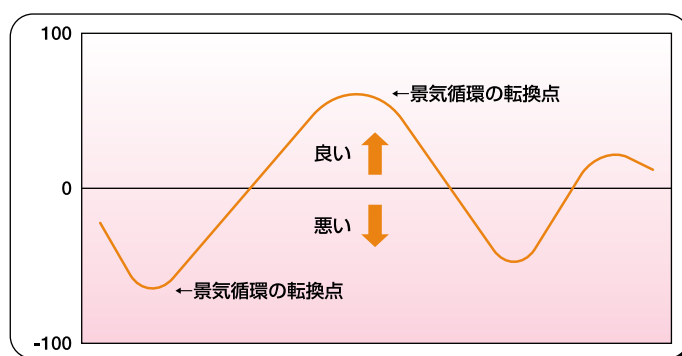
DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3カ月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 (\%ポイント)$$



結果概要

1～3月期の景況

全産業の景況感2期連続のプラス。幅広い業種に消費増税前の駆け込み需要。

自動車部品製造業は好調を維持。自動車生産の増加が寄与。

小売業の景況感が大幅に改善、22年ぶりの水準。建設業はリフォーム工事も増加。

4～6月期の予想

駆け込み需要の反動減を懸念。予想DIは大幅悪化へ。

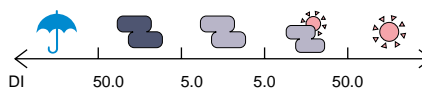
機械器具部品製造業はDIプラスを維持する見通し。国内設備投資の回復背景。

業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	前期 (10～12月)	今期 (1～3月)	予想 (4～6月)	業種	前期 (10～12月)	今期 (1～3月)	予想 (4～6月)
全産業	6.5	6.5	21.9	印刷	36.3	33.3	33.4
製造業	1.4	4.7	22.9	食料品	4.0	20.0	16.0
非製造業	10.3	7.9	21.1	卸売業	9.4	10.5	20.9
自動車部品	7.2	13.5	45.8	小売業	19.1	1.6	32.3
機械器具部	5.5	9.2	1.9	飲食業	46.2	38.5	65.4
金属製品	2.5	9.1	6.4	建設業	39.5	22.6	11.0
窯業・土石	5.9	0.0	33.3	不動産業	17.1	0.0	5.7
木材・木製品	0.0	42.8	28.5	運輸業	9.3	18.2	54.8
繊維製品	14.8	9.6	45.0	サービス業	1.2	1.2	9.9

〔天気図の見方〕



業況判断

〔全産業〕

1～3月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）は6.5となり、10～12月期（6.5）と変わらなかった。DIのプラスは2四半期連続。全体として景況感は回復している。

	前期	今期	予想	変化幅			
	〔10～12月期〕	〔1～3月期〕	〔4～6月期〕	前期	今期	今期	予想
全産業	6.5	6.5	21.9	0.0	-	-28.4	
製造業	1.4	4.7	22.9	3.3		-27.6	
非製造業	10.3	7.9	21.1	-2.4		-29.0	

（単位：％ポイント　　はマイナス）

4～6月期の**予想業況判断DI**はマイナス21.9と、28.4ポイントの悪化を見込む。

〔製造業〕

業況判断DIは4.7。10～12月期（1.4）にくらべ3.3ポイントの改善。改善は4四半期連続。2四半期連続のプラス。消費増税前の駆け込み需要が幅広い業種で見られた。

- DIが改善したのは、自動車部品、機械器具部品、窯業・土石、木材・木製品、繊維製品、印刷。悪化したのは、金属製品と食料品。

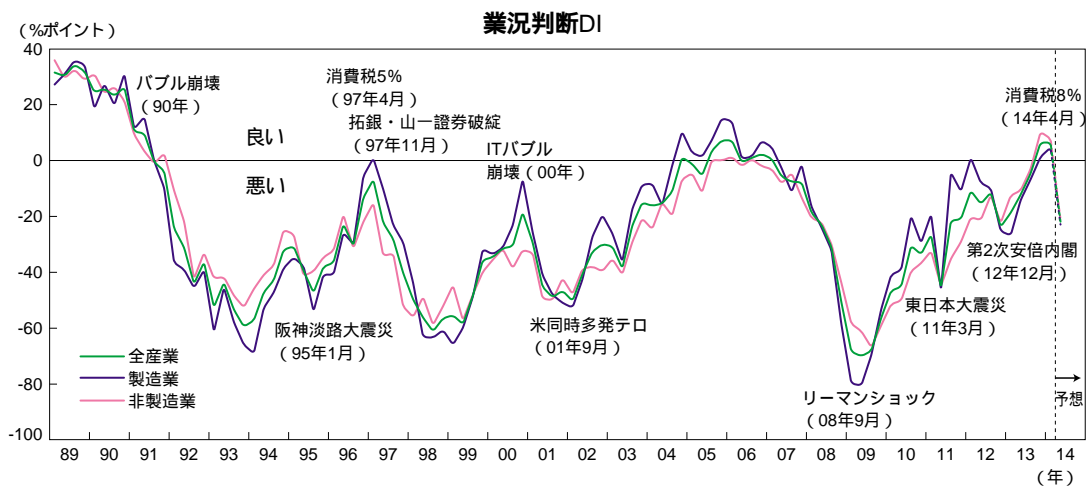
- 自動車部品は3四半期連続のプラス。駆け込み需要で自動車生産が増加したことが寄与。

予想業況判断DIはマイナス22.9。駆け込み需要の反動で景況感は悪化する見通し。

- 金属製品と食料品は改善を予想。
- 機械器具部品はDIのプラスを維持する見通し。国内の設備投資が回復しつつあるのが背景。

〔非製造業〕

業況判断DIは7.9。10～12月期（10.3）にくらべ2.4ポイントの悪化。



調査レポート

- ・ DIが改善したのは、卸売業、小売業、飲食業、運輸業。悪化したのは、建設業と不動産業。
- ・ 卸売業は5四半期連続の改善。建設材料や機械器具を扱う企業は堅調推移、食品・飲料を扱う企業も回復。
- ・ 小売業は大幅に改善。22年ぶりにDIがゼロ付近へ。
- ・ 建設業は増税前の駆け込み需要でリフォーム工事も増加。
- ・ サービス業は、対法人向けサービスと対個人向けサービスで明暗。法人向けは駆け込み需要で好調を維持、個人向けは振るわなかった。

予想業況判断DIはマイナス21.1。大幅な悪化を予想。

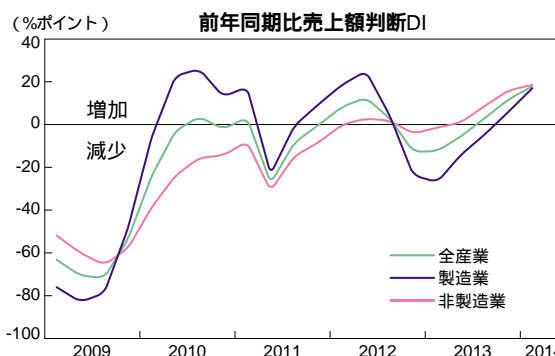
		1～3月期の業況		4～6月期の予想	
		改善した業種	悪化した業種	改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	製造業	自動車部品 機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷	金属製品 食料品	金属製品 食料品	自動車部品 機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷
	非製造業	卸売業 小売業 飲食業 運輸業	建設業 不動産業		卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業
		サービス業は横ばい			

売上額・収益

〔全産業〕

前年同期比売上額判断DI（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は17.9〔増加〕。増収は3四半期連続。

前年同期比収益判断DI（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は2.6〔増加〕。増益は2四半期連続。

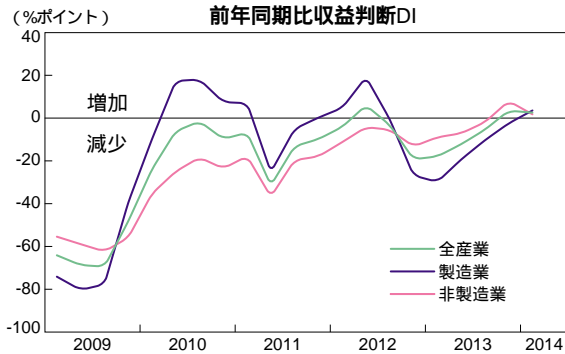


〔製造業〕

前年同期比売上額判断DIは17.0〔増加〕。増収は2四半期連続。

前年同期比収益判断DIは3.6〔増加〕。増益は7四半期ぶり。

- 増収増益となったのは、自動車部品、機械器具部品、金属製品、窯業・土石、繊維製品。



〔非製造業〕

前年同期比売上額判断DIは18.6〔増加〕。増収は4四半期連続。

前年同期比収益判断DIは1.8〔増加〕。増益は2四半期連続。

- 増収増益となったのは、卸売業、建設業、不動産業。

		前年同期に比べた売上額				前年同期に比べた収益	
		増加した業種	減少した業種			増加した業種	減少した業種
製造業	製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品	印刷 食料品	非製造業	非製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品	印刷 食料品
	木材・木製品は変わらず		飲食業は変わらず				
非製造業	非製造業	卸売業 小売業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業		非製造業	卸売業 建設業 不動産業	小売業 飲食業 運輸業	
	サービス業						

販売価格・仕入価格

〔全産業〕

販売価格判断DI（販売価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は6.5〔上昇〕。

仕入価格判断DI（仕入価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は45.2〔上昇〕となった。

〔製造業〕

販売価格判断DIはマイナス1.6〔下落〕

原材料仕入価格判断DIは40.8〔上昇〕。

- ・このところ販売価格の下落は収まってきたが、原材料仕入価格の上昇は、円安などを背景に幅広い業種にまだ広がっていることが確認できる。

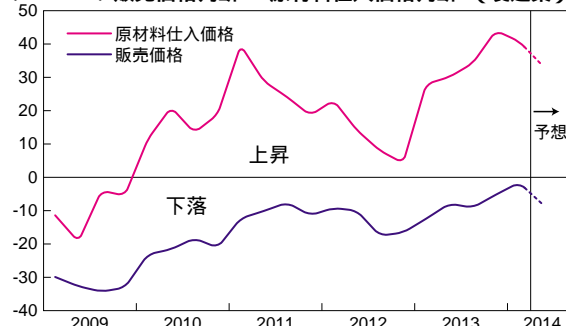
〔非製造業〕

販売価格判断DIは12.7〔上昇〕。5四半期連続の上昇。

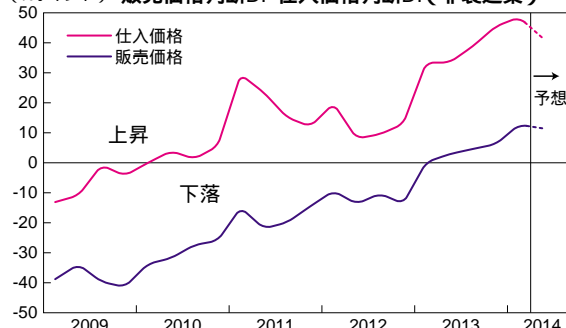
仕入価格判断DIは48.5〔上昇〕。

- ・価格転嫁が進んでいるとみられる。
- ・不動産業では物件価格の上昇傾向が続いているが、「関東や関西のファンド系が土地価格を押し上げている」との指摘もある。
- ・食材が値上がりしている飲食業と燃料価格が上昇している運輸業で仕入価格の上昇を訴える企業が多い。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



資金繰り

〔全産業〕

資金繰り判断DI (資金繰りが3カ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値)はマイナス0.2〔苦しい〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス9.3〔苦しい〕。

〔製造業〕

資金繰り判断DIはマイナス2.3〔苦しい〕。

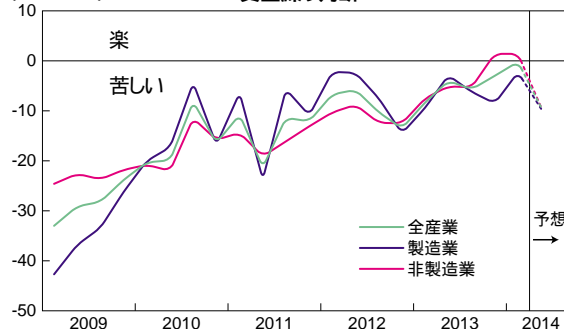
予想資金繰り判断DIはマイナス9.6〔苦しい〕。

〔非製造業〕

資金繰り判断DIは1.4〔楽〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス9.3〔苦しい〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



雇用

〔全産業〕

残業時間判断DI（残業時間が3ヵ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は15.3〔増加〕。

予想残業時間判断DIはマイナス6.4〔減少〕。

人手過不足判断DI（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス29.4〔不足〕となり、人手不足感が広がっている。

予想人手過不足判断DIはマイナス19.1〔不足〕となっている。

〔製造業〕

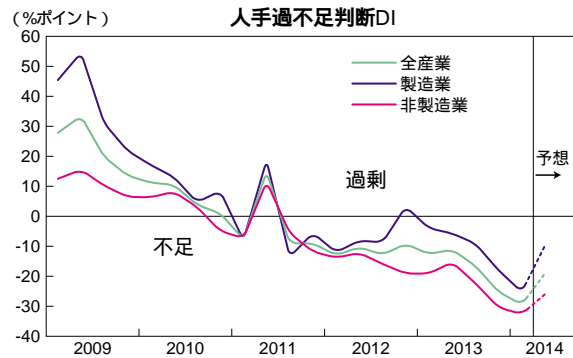
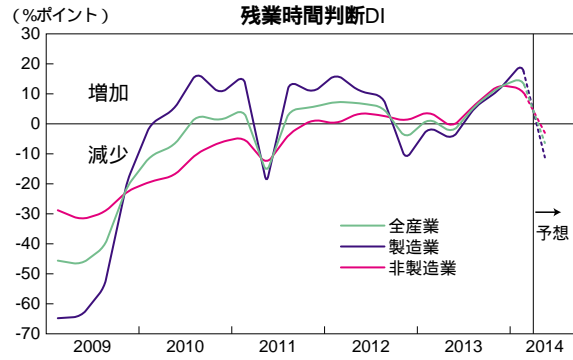
残業時間判断DIは20.0〔増加〕。

- 繊維製品と食料品を除く、すべての業種で残業時間が増加。

予想残業時間判断DIはマイナス6.4〔減少〕。

人手過不足判断DIはマイナス25.2〔不足〕。

予想人手過不足判断DIはマイナス9.8〔不足〕。



		3ヵ月前と比べた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 印刷	繊維製品 食料品	
	卸売業 小売業 建設業 運輸業 サービス業		飲食業 不動産業

		人手過不足感	
		人手過剰	人手不足
製造業	（人形アイコン）	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 印刷	
	木材・木製品、食料品は過不足感なし		
非製造業	（人形アイコン）	卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	

〔非製造業〕

残業時間判断DIは11.8〔増加〕。予想残業時間判断DIはマイナス3.0〔減少〕。

- ・ 飲食業と不動産業を除く、すべての業種で残業時間が増加。

人手過不足判断DIはマイナス32.6〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス26.0〔不足〕。

- ・ 建設業は深刻な人手不足。とくに専門職人が不足している。
- ・ 運輸業にも人手不足感が広がっている。

設 備

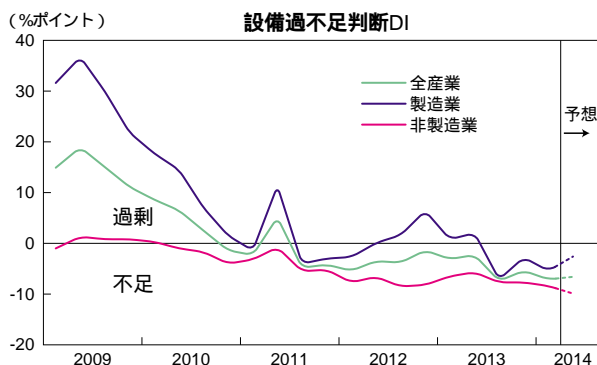
〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス7.1〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス6.6〔不足〕。

1～3月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は33.2%。

4～6月期に設備投資を計画している企業は27.6%。



〔製造業〕

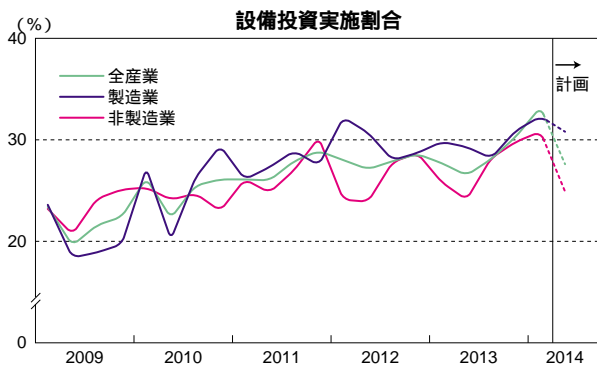
設備過不足判断DIはマイナス5.4〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス2.6〔不足〕。

1～3月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は32.3%。

- ・ 内訳としては、機械・設備の新增設54.1%、機械・設備の更改30.6%、車両24.3%、事務機器21.6%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が37.8%、能力増強が33.3%、合理化・省力化が30.6%などとなった。

4～6月期に設備投資を計画している企業は30.8%。

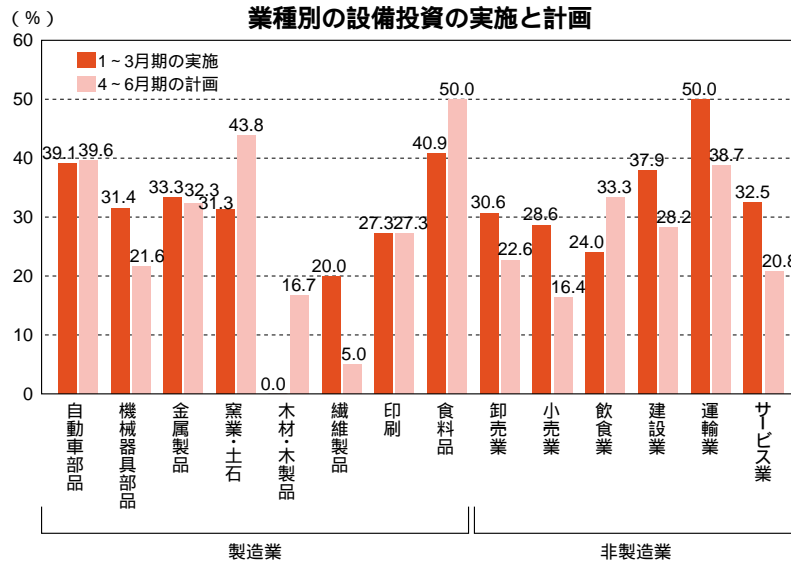


〔非製造業〕

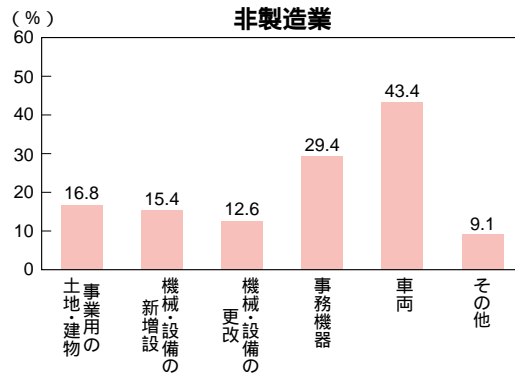
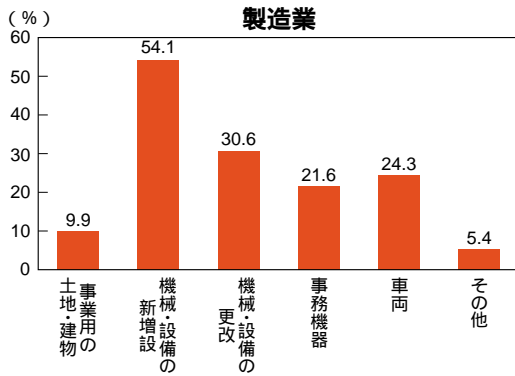
設備過不足判断DIはマイナス8.4〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス9.9〔不足〕。

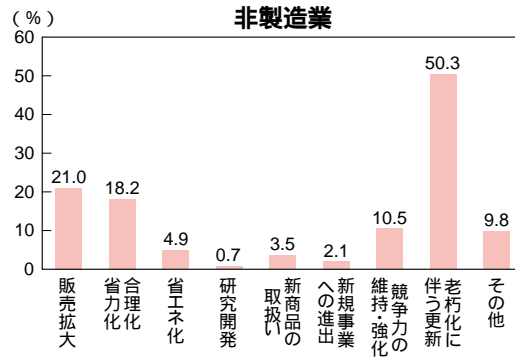
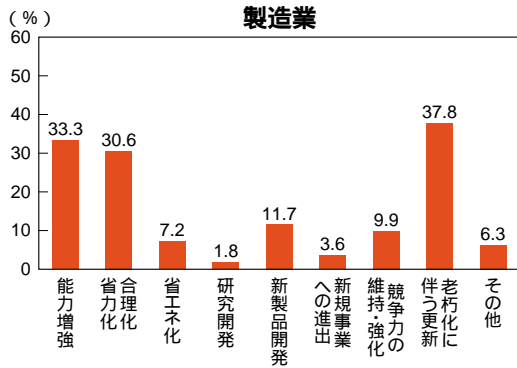
- ・ 1～3月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は33.9%。
- ・ 内訳としては、車両が43.4%、事務機器が29.4%、土地建物16.8%、機械・設備の新增設が 15.4% などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が50.3%、販売拡大が21.0%、合理化・省力化が18.2%、競争力の維持・強化が10.5%などとなった。
- ・ 4～6月期に**設備投資を計画**している企業は24.9%。



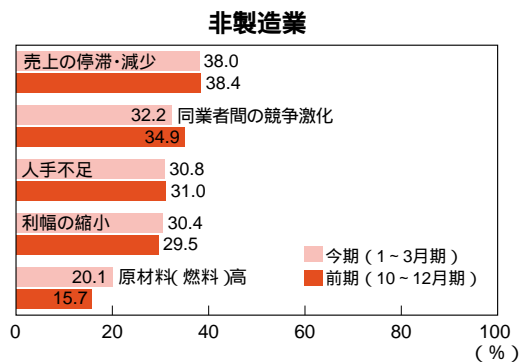
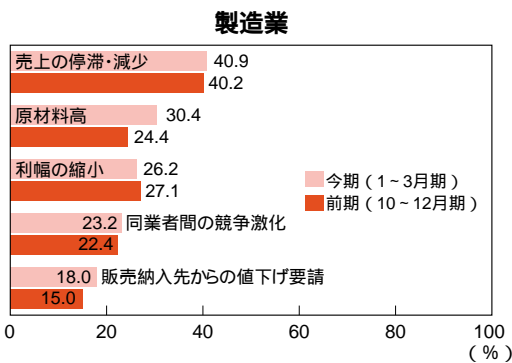
1～3月期の設備投資の内訳



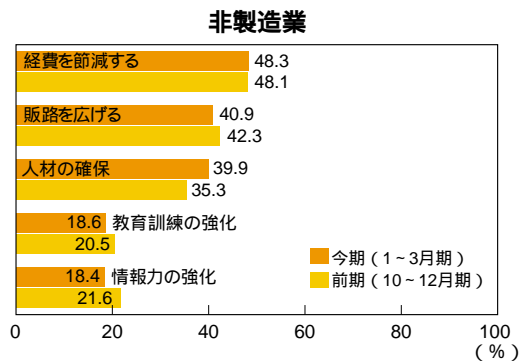
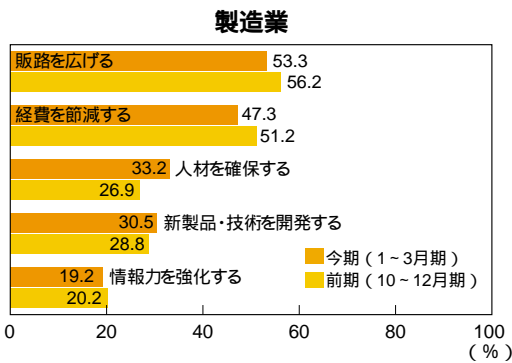
1～3月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



業種別動向

製造業

自動車部品

1～3月期の景況 5期連続で景況感改善、増税前の駆け込み需要

4～6月期の予想 反動減を懸念、予想判断DIは大幅な悪化へ

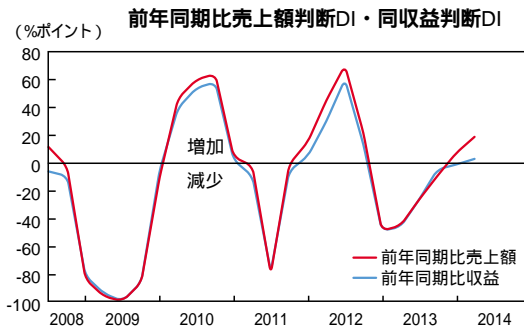
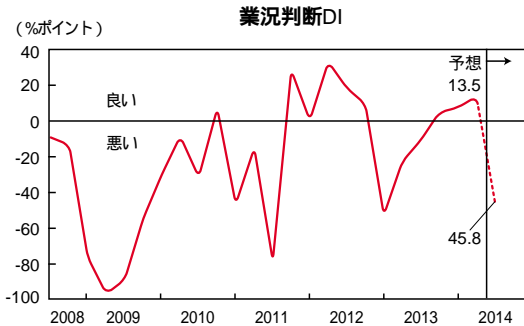
1～3月期の景況

業況判断DIは13.5となり、10～12月期(7.2)にくらべ改善した。5四半期連続の改善で、プラスは3四半期連続。消費増税前の駆け込み需要で新車販売が好調なことが寄与した。

トヨタ自動車の日当たり(国内)生産台数が、1月以降1万4,000台を超える高い水準で推移するなか、残業時間が増加、製造現場には繁忙感が広がっている。〔残業時間判断DIは29.9〕

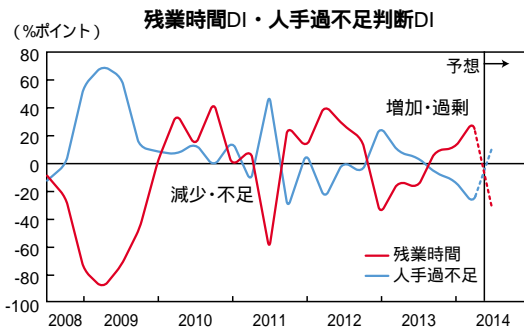
ただ、作っている部品の車種によって業況に差が生じていることは否めない。ハイブリッド車や小型車の部品製造は比較的堅調。企業間格差が広がりつつある。

前年同期とくらべた売上額はプラス〔増加〕、同収益もプラス〔増加〕に転じている。

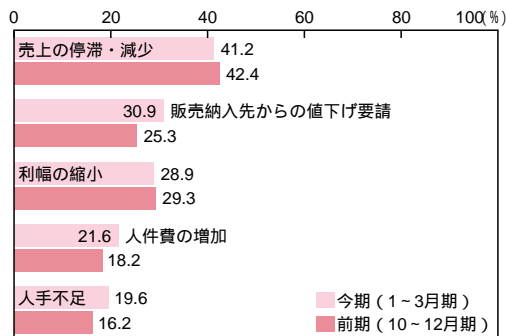


4～6月期の予想

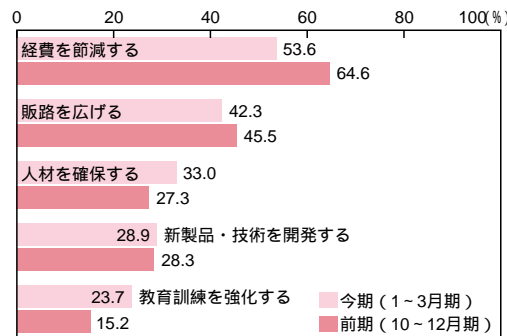
予想業況判断DIは 45.8。景況感は大幅に悪化する見通し。駆け込み需要の反動減が、どの程度で、いつごろまで続くかを懸念する声が多い。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



1～3月期の景況 景況感の改善続く、国内設備投資の回復で

4～6月期の予想 予想DIは悪化を見込むも、プラスを維持

■ 1～3月期の景況

業況判断DIは9.2と、10～12月期（5.5）にくらべ改善した。改善は4四半期連続。

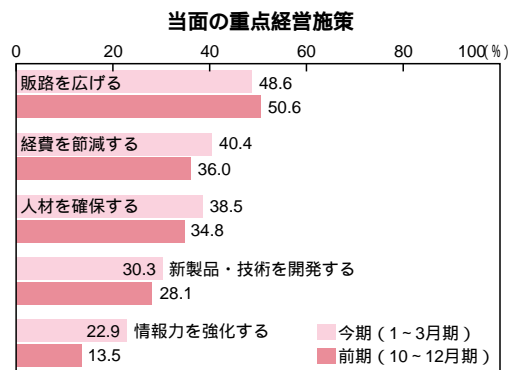
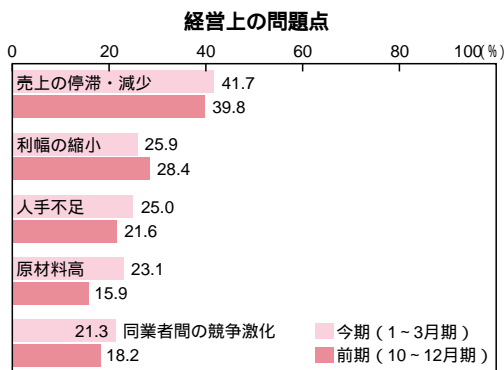
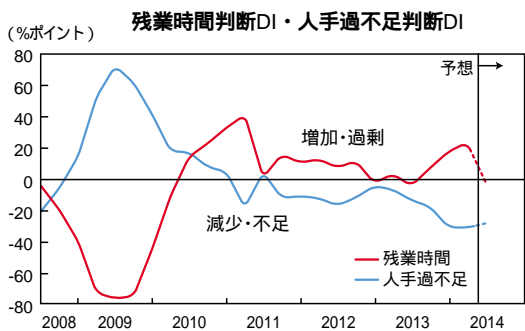
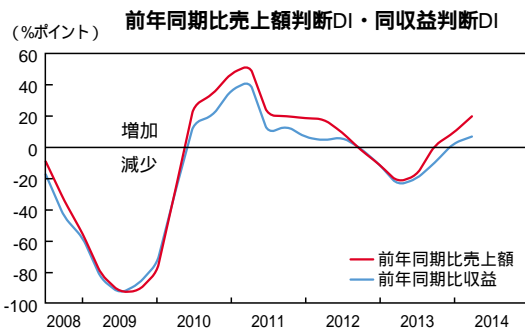
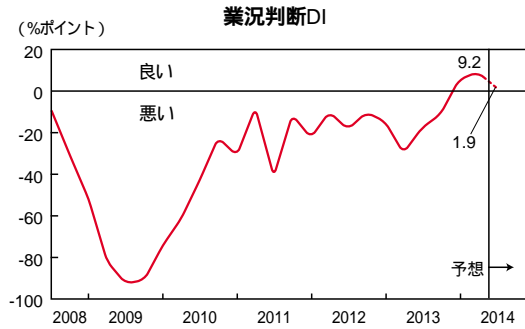
前年同期比売上額判断DIと同収益判断DIをみると、ともにプラスを維持。このところ国内の設備投資が徐々に回復しており、機械部品製造業には増収増益の企業が比較的多く見られた。受注残も増加傾向が続いている。

残業時間は増えており、人手不足感は収まっていない。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは1.9。1～3月期にくらべ悪化する予想だが、プラス域にとどまった。予想DIがプラスになったのは、全業種中、機械器具部品製造業のみ。

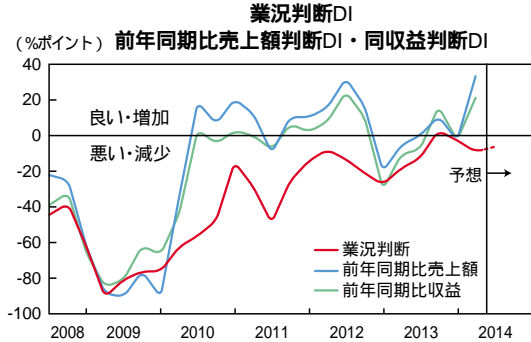
受注残や売上額の予想DIも引き続きプラス〔増加〕となり、消費増税の反動減で大幅な落ち込みを見込む他の業種にくらべ、底堅い面がうかがえる。



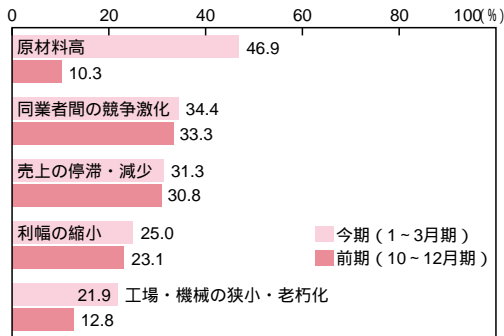
□ 【金属製品】

業況判断DIは 9.1。10～12月期（ 2.5）に比べ悪化した恰好。ただ、前年同期比売上判断DIや同収益判断DIはプラス〔増加〕に転じており、駆け込み需要の影響が表れている。経営上の問題点をみると「原材料高」をあげる企業が急増している。

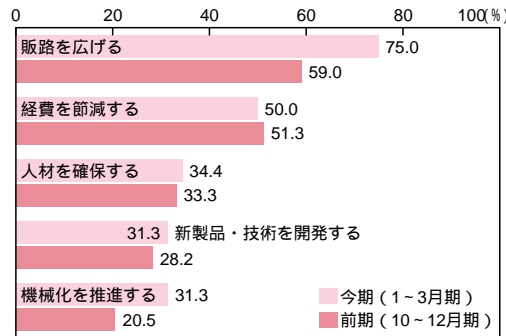
予想業況判断DIは 6.4と、やや改善する見通し。



経営上の問題点



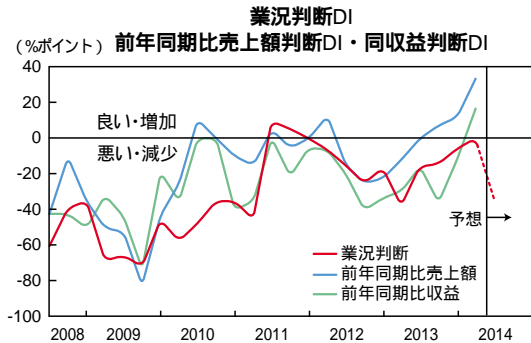
当面の重点経営施策



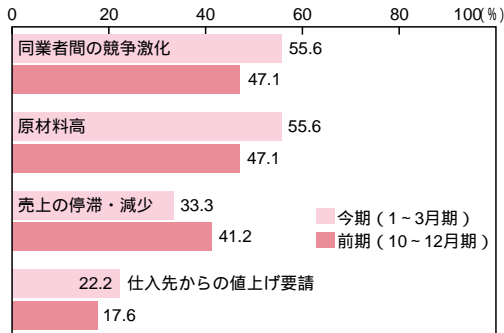
□ 【窯業・土石】

業況判断DIは0.0。10～12月期（ 5.9）に比べ改善した。前年同期比売上判断DI、同収益判断DIはともにプラス〔増加〕。収益判断DIのプラスは、「窯業・土石」として集計を始めた2007年10～12月以来はじめてのこと。公共事業の増加や住宅の駆け込み需要などが寄与したとみられる。

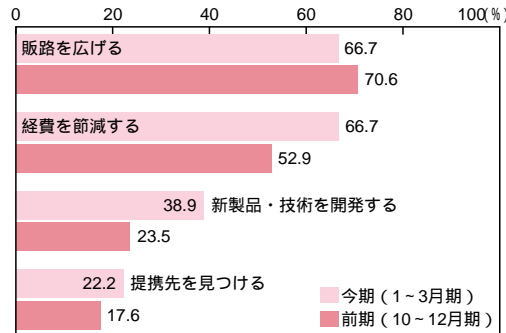
予想業況判断DIは 33.3。



経営上の問題点



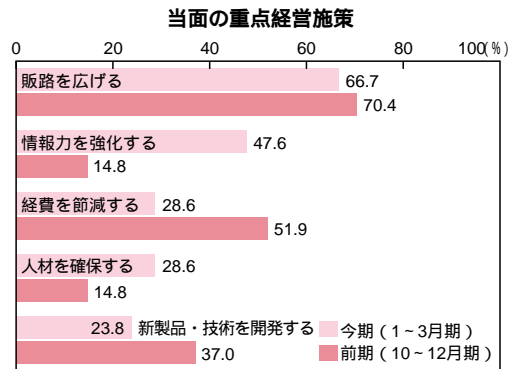
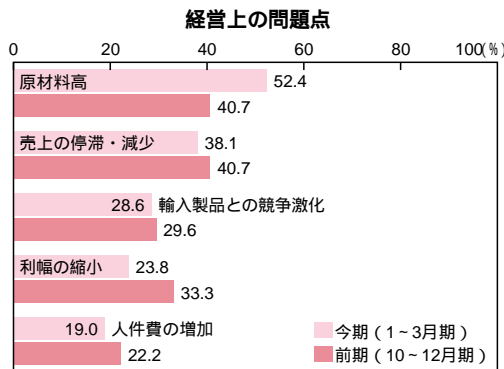
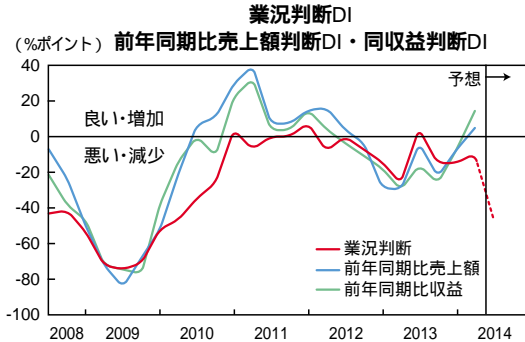
当面の重点経営施策



□ 【繊維製品】

業況判断DIは 9.6となり、10～12月期（14.8）に比べ改善した。駆け込み需要の影響もあって、前年同期に比べた売上額や収益も上向いた。経営上の問題点には、依然として「原材料高」をあげる企業が多い。

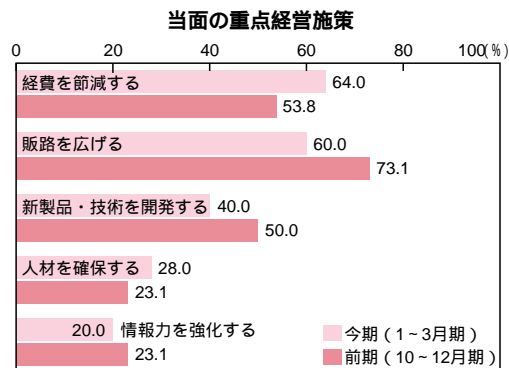
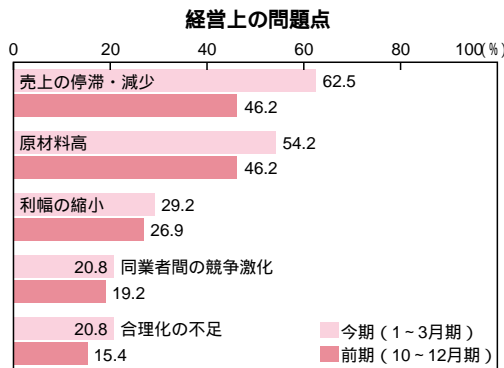
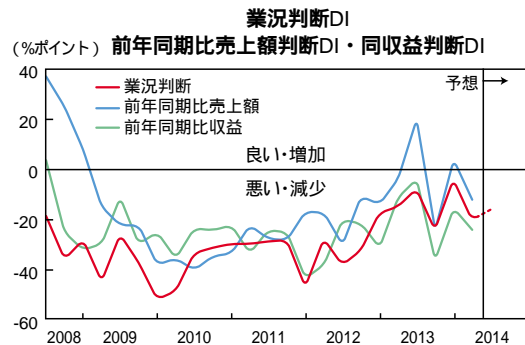
予想業況判断DIは 45.0。景況感は大幅に悪化する見通し。



□ 【食料品】

業況判断DIは 20.0。10～12月期（4.0）に比べ大幅に悪化した。前年同期比売上額判断DIも同収益判断DIもマイナス〔減少〕域にあって、景況感は芳しいものではなかった。売上の停滞に加え、原材料価格の値上がりも響いたとみられる。

予想業況判断DIは 16.0。



1～3月期の景況 DIが5期連続の改善、食品・飲料も回復

4～6月期の予想 建設材料、大幅な反動減の影響を懸念

■1～3月期の景況

業況判断DIは10.5となり、10～12月期(9.4)にくらべ少し改善した。改善は5四半期連続、DIのプラスは2四半期連続。総じて景況感は回復している。

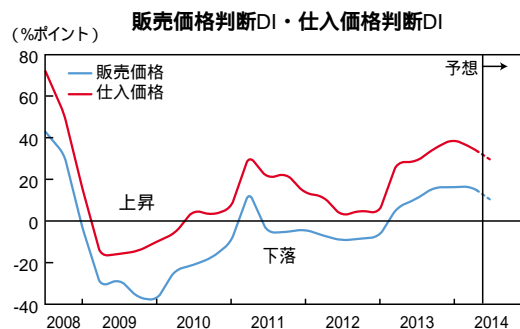
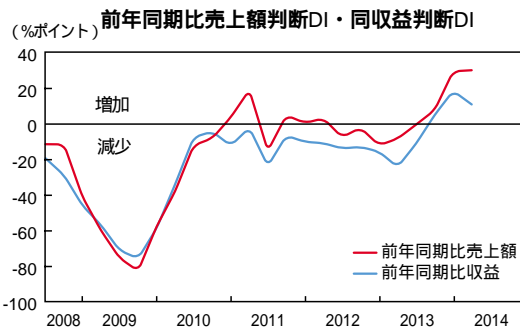
建設材料や機械器具を扱う企業は引き続き堅調、ここにきて食品・飲料を扱う企業の景況感も回復した。消費増税前の駆け込み需要の影響が出ている。このなかで農畜産物・水産物を扱う企業の回復の遅れが目立っている。

仕入価格と販売価格は上昇傾向が続いており、価格転嫁がおおむね進んでいるとみられる。

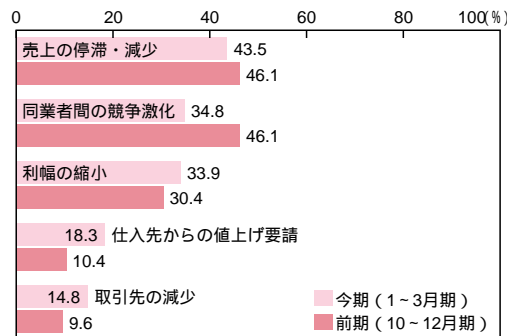
■4～6月期の予想

予想業況判断DIは 20.9。駆け込み需要の反動で、景況感の大幅な悪化が見込まれている。とくに建設材料を扱う企業でその影響を懸念するところが比較的に多い。

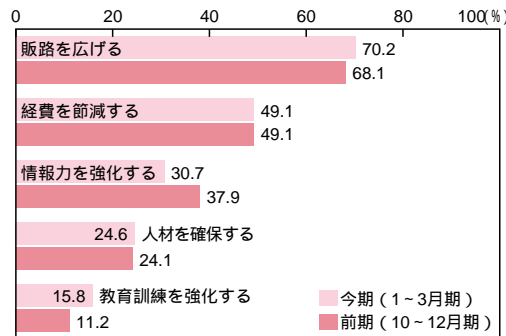
業況判断DI	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月(予想)
機械器具卸	27.0	25.0	13.1	13.0
建設材料卸	10.0	28.5	36.4	31.9
食品・飲料卸	30.8	27.3	7.7	7.7
農畜産物・水産物卸	40.0	35.3	25.0	31.2



経営上の問題点



当面の重点経営施策



1～3月期の景況 …… 判断DI 22年ぶりの水準に、売上・収益も上向く

4～6月期の予想 …… 駆け込み需要の反動減で、景況感は大幅悪化へ

■ 1～3月期の景況

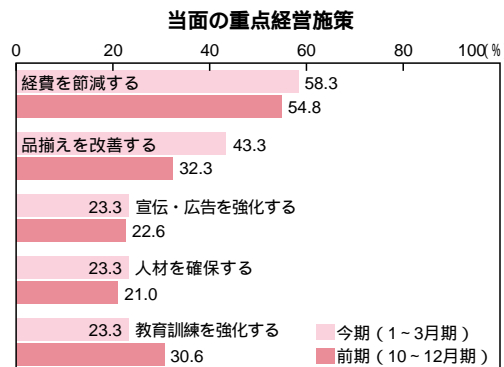
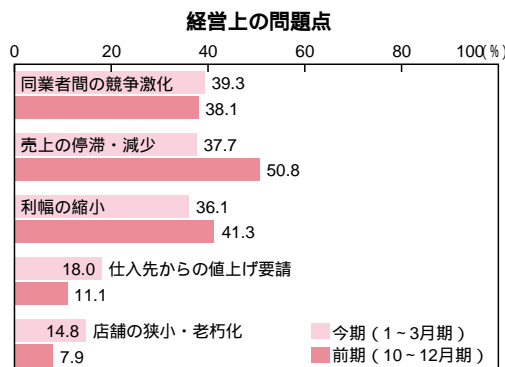
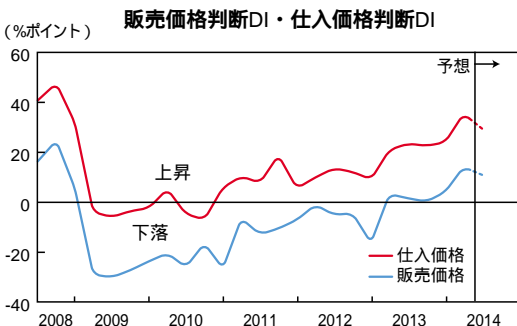
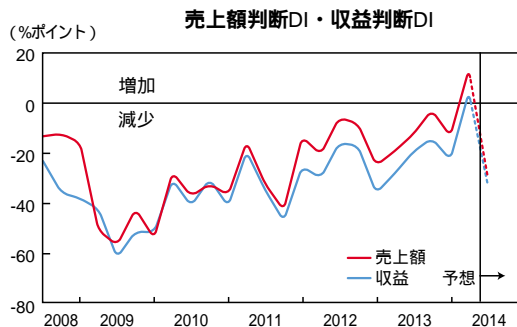
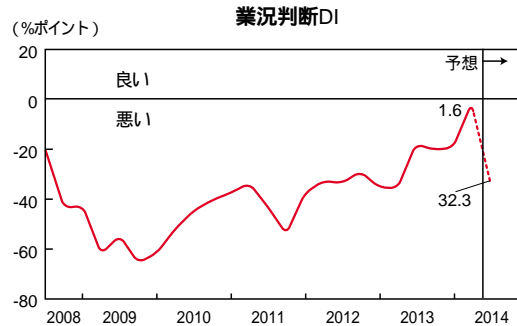
業況判断DIは 1.6。10～12月期（ 19.1）に比べ大幅な改善が見られた。改善幅の17.5ポイントは非製造業のなかで最大。DIが深い水面下からゼロ付近の水準に達するのは、1991年10～12月期以来、およそ22年ぶりのこと。

消費増税前の駆け込み需要の影響が出ており、足元の売上や収益も久方ぶりに上向いた形（プラス）となった。「サラリーマンの購買意欲が少し出てきた感じがする」「紳士服の売上げが伸びている」といった声が聞かれた。

経営上の問題点をみると、「売上の停滞・減少」に代わって「同業者間の競争激化」がトップにあがった。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 32.3と、悪化する予想となった。駆け込み需要の反動減が懸念されている。



1～3月期の景況 マインドの回復遅れ、水面下の景況長引く

4～6月期の予想 消費者心理の悪化を懸念、予想DIは大幅悪化へ

▶ 1～3月期の景況

業況判断DIは 38.5。10～12月期(46.2) にくらべ改善した格好にはなったが、依然として水面下にあつて、厳しい業況は変わっていない。他業種にくらべマインド回復の遅れが目立っている。

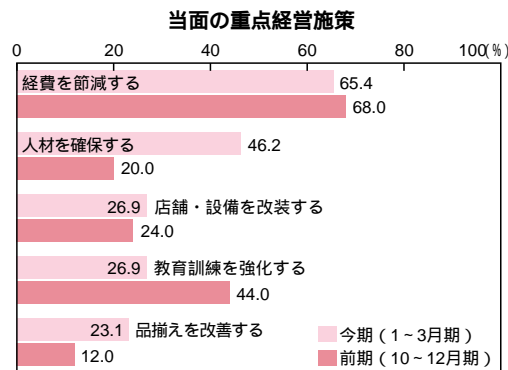
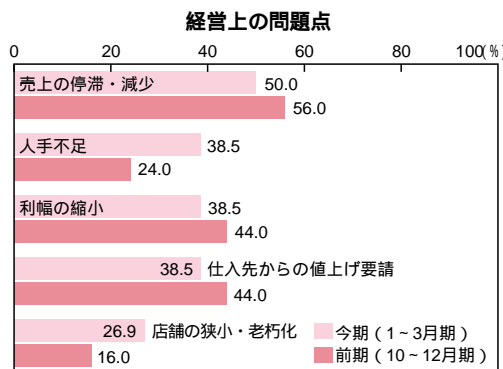
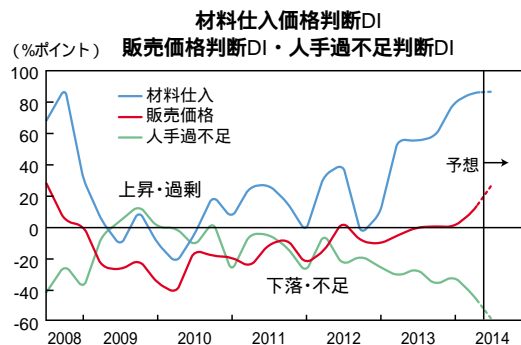
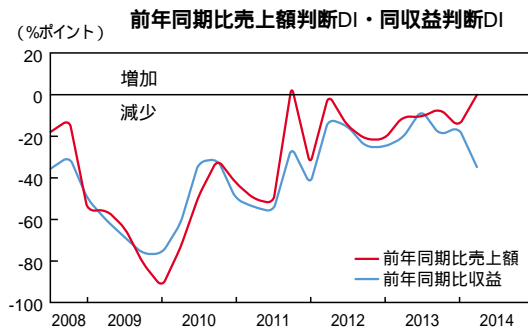
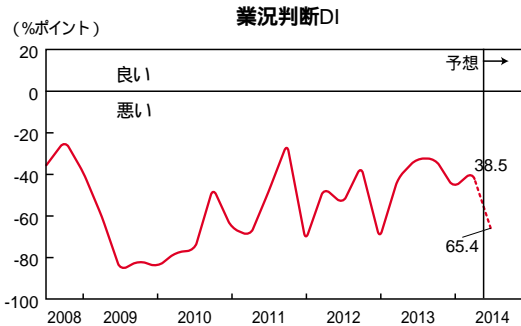
前年同期比売上額判断DIは0.0の横ばいとなったが、同収益判断DIは 34.6〔減少〕と、マイナスのまま。食材仕入価格の上昇が収益を圧迫している構図が浮き彫りとなった。

▶ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 65.4となり、大幅な悪化が予想されている。

消費税率引き上げ前の影響はほとんどみられなかったが、引き上げ後に消費者心理が悪化し、外食が抑えられるのではないかと心配する声が少ない。

人手不足は慢性化しており、重点経営施策をみると「人材を確保する」のポイントが増えている。



1～3月期の景況 旺盛な建設需要つづく、人手不足と材料高を懸念

4～6月期の予想 業況判断DIマイナスへ、駆け込み需要の反動減で

■ 1～3月期の景況

業況判断DIは22.6。プラスは5四半期連続。公共事業や民間建設（住宅）の工事はおおむね増加しており、消費増税前の駆け込み需要でリフォーム工事も増加している。生産工場の補修やメンテナンス関連のニーズも多い。

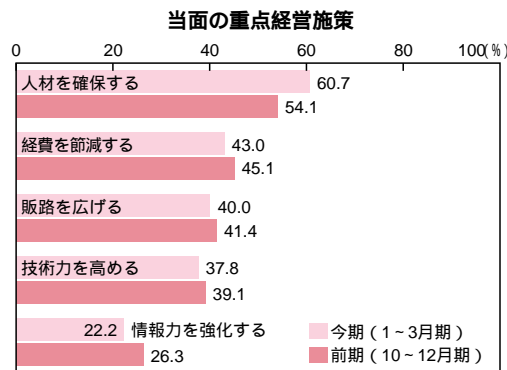
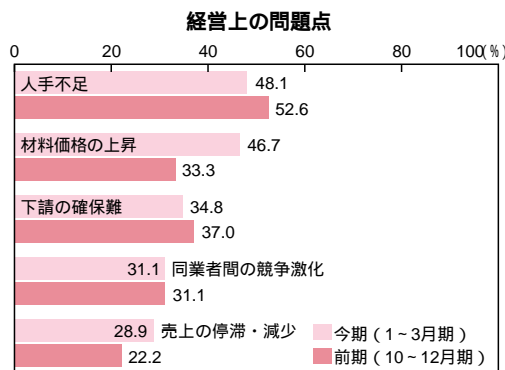
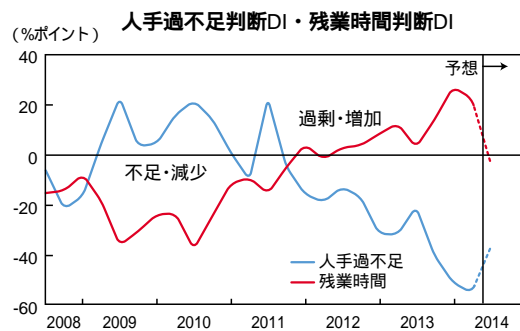
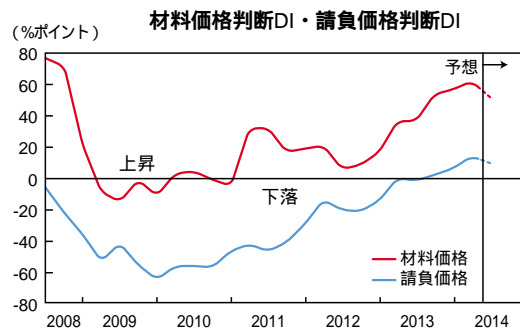
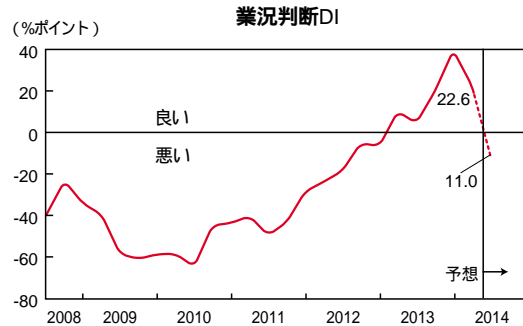
ただ、前回調査（39.5）にくらべDIは低下しており、やや慎重に業況を判断する企業も増えている。

懸念材料は深刻な人手不足、とくに専門職人が不足している。資材価格の高騰を問題視するところも少なくない。旺盛な建設需要を映して、請負価格もジワジワと上がっている。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 11.0と、マイナス域に転じる見通し。駆け込み需要の反動減で、「4月以降は不透明」という企業が少なくなない。

当面の重点経営施策には「人材を確保する」がトップにあがっている。この先も人手不足は収まりそうにない。



1～3月期の景況 価格の上昇傾向つづく、ファンドが押し上げの声も
 4～6月期の予想 予想DIはマイナス、マインド悪化の見通し

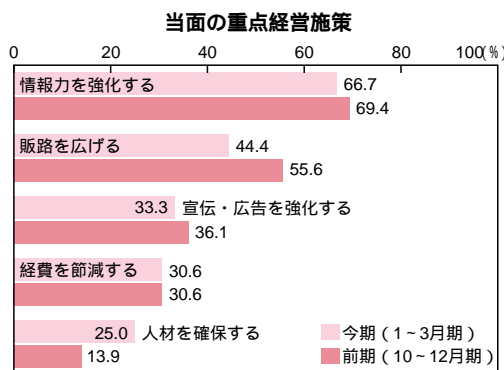
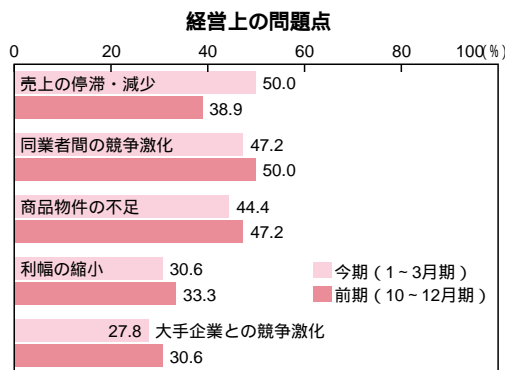
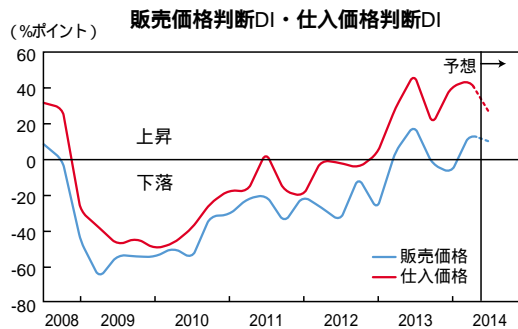
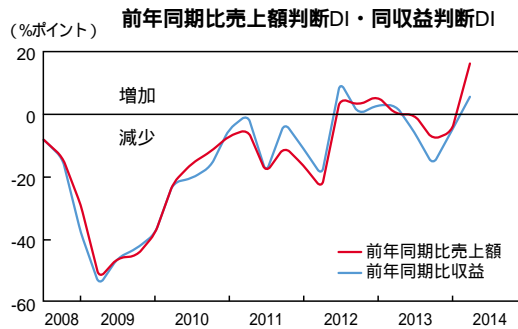
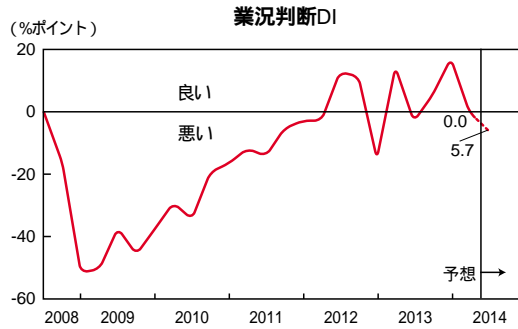
▶ 1～3月期の景況

業況判断DIは0.0。10～12月期（17.1）に比べ悪化した形になったが、足元の売上額や収益は上向いている。前年同期比売上額判断DIは16.2、同収益判断DIは5.6と、ともにプラス〔増加〕になった。

商品物件の価格上昇傾向も続いているようで、物件不足を問題点として指摘する企業も少なくない。なかには「関東や関西のファンド系が土地価格を押し上げている」との指摘もあった。

▶ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 5.7。DIはマイナスに転じ、マインドは悪化する見通しとなっている。



1～3月期の景況 景況感2期連続の改善、企業収益は増えず

4～6月期の予想 反動減と燃料高で、大幅なDI悪化を予想

■ 1～3月期の景況

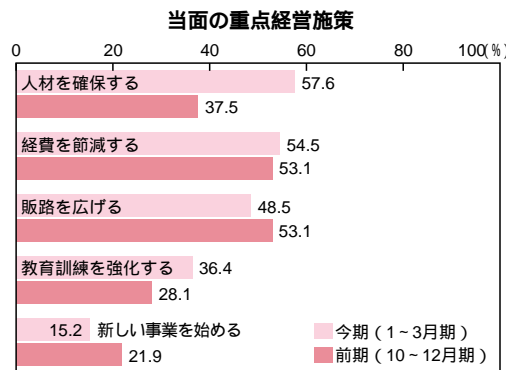
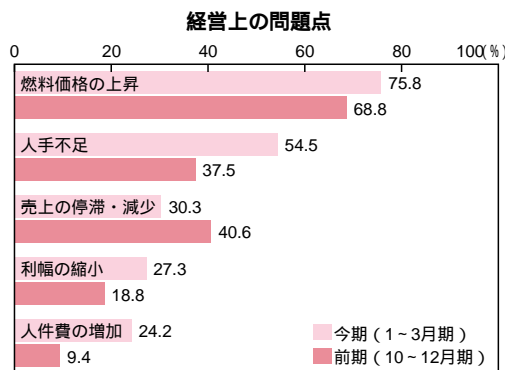
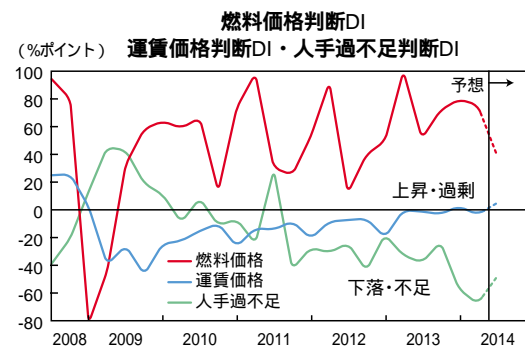
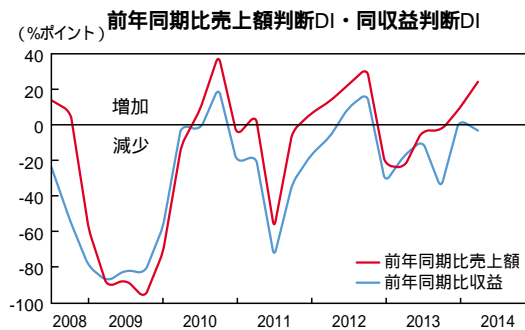
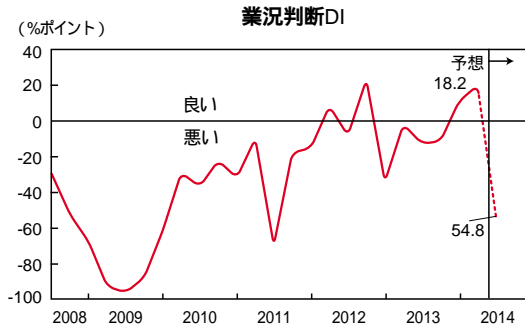
業況判断DIは18.2となり、10～12月期(9.3)に比べ改善した。プラスは2四半期連続。自動車生産の増加にともなって、部品輸送関連企業を中心に景況の回復が見られた。「期間限定の仕事が増えた」という声もあった。

ただ、駆け込み需要で売上は増えたものの、燃料価格高騰で収益はあまり伸びなかったようである。前年同期比売上額判断DIが24.3とプラス幅を広げたのに対し、同収益判断DIは 3.1と減少域へと没している。経営上の問題点も「燃料価格の上昇」をあげる企業が増えている。

人手不足感もかなり広がっているようす。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 54.8と、景況感の大幅な悪化が見込まれている。悪化幅は全業種中最大。駆け込み需要の反動減に加え、燃料価格高が引き続き収益の足を引っ張ると見る向きが多い。



1～3月期の景況 景況感は横ばい推移、人手不足感収まらず

4～6月期の予想 予想DI悪化へ、法人向けはプラスを維持

■1～3月期の景況

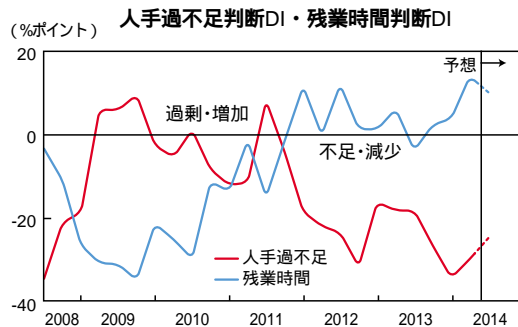
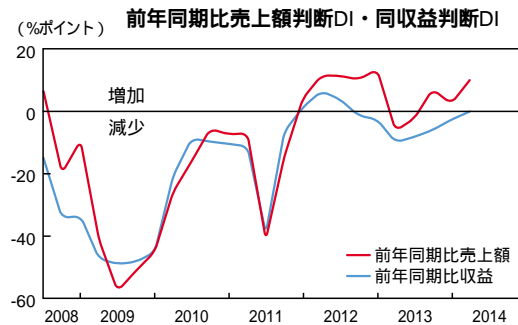
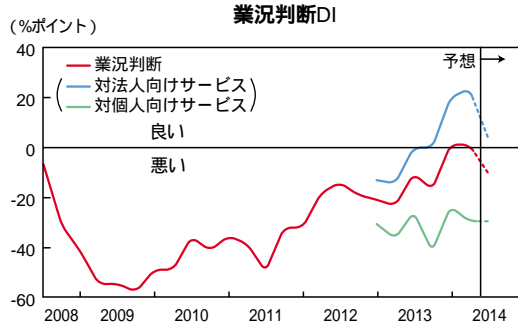
業況判断DIは1.2となり、10～12月期（1.2）と変わらず、全体としてマインドは横ばい推移した。

機械設備メンテナンスなどの対法人向けサービスは、消費増税前の駆け込み需要もあって好調を維持したが、対個人向けサービスは振るわなかった。法人向けサービスのDIが23.5だったのに対し、個人向けサービスは 29.4と、明暗が分かれる形となった。

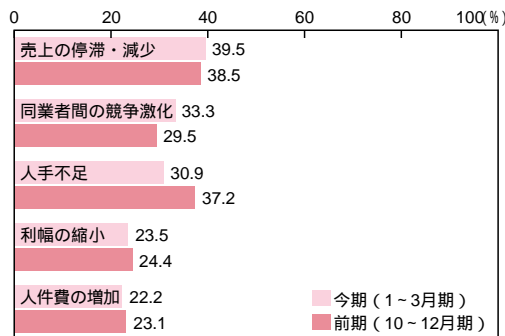
人手不足感は依然として収まっておらず、経営上の問題点には「売上の停滞・減少」とともに「人手不足」が上位にあがっている。

■4～6月期の予想

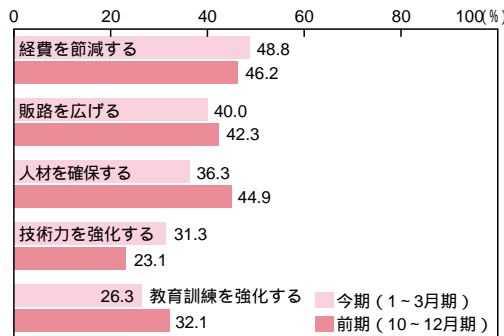
予想業況判断DIは 9.9。1～3月期にくらべ悪化する見込み。対法人向けサービス、対個人向けサービス、ともに悪化が予想されているが、法人向けは4.3と、プラスを維持する見通し。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



お客様から寄せられた声

* 景気動向調査表に記載のあった意見などをご紹介します。

製造業のお客様

金型メーカーには新規受注が、かなり入っているようです。金型の製作を頼めるところが無いくらいなので景気は上向いていると思うが、親会社からの要求はさらに厳しくなっている。(自動車部品)

小規模な下請企業は大幅に単価を引き下げられたままで、とても賃上げはできない。親企業に単価の見直しを少しでも考えてもらいたい。(自動車部品)

利益が出ている時ほど設備投資をしたものだが、内部留保も必要だ。特別償却等の優遇措置を強化する税制改革(本当の意味での景気回復につながる制度)を期待する。(自動車部品)

インフラ整備の方向が見えない状態が長引いていて、建設関連の川下には競争激化やコスト削減の疲労感がみられる。短兵急に公共事業を拡大しても経済活動の源泉たる「人・物・金」が追いつかないのではないか。(溶接金網)

景気の先行きは見通せない状況が続いている。親メーカーは打ち合せから発注までの時間が長い。それなのに、発注から納入期限までは短い。これでは残業が増えたり、経費がかかったりし

て、利幅は小さくなる。(製缶)

世界経済に影響を受けない安定した産業を確立する必要がある。(工作機械)

大企業ではベースアップすることのこと。当社は消費税アップ、固定費アップ。ベースアップどころではない。(油圧・空圧バルブ)

企業間格差が広がって、小規模企業の倒産や廃業が増えている。大企業の生産拠点の海外移転 国内生産の縮小
正規社員の減少 非正規社員の増加
生活の不安定化 景気の悪化・社会不安。こんなシナリオが描けると思う。(工業用ゴム製品)

石製品が生活必需品ならば良いが、そうではない。その石製品を外国から仕入れて販売している業者は、自社工場で製造販売している当社よりも利益を出しているようです。当社はとても大変。むかし、岡崎は石製品づくりが盛んな「石屋の街」と呼ばれていて、採石業者(山石屋)もたくさんいたが、今は輸入品を扱う業者が増えてしまったために廃業せざるを得ない採石業者もいる。(石製品)

消費税率引き上げ後の売上が、どの程度になるのか読めない。(花火)

電気料金などの経費が増えている。(アイスクリーム)

消費税率の引き上げよりも電気料金や人件費(最低賃金の引き上げ)のほうの問題。(特紡糸)

消費税率引き上げ前の駆け込み需要で出荷量が増加しているが、引き上げ後の反動減を警戒している。(瓦用粘土)

この5~6年の低迷していた経済が、安倍政権で少し明るさを取り戻したかのように感じる今日このごろ。問題は円安。円安で恩恵を受けているのは大手輸出企業だけで、国内の99.7パーセントを占める中小企業は困っているところが多いと思う。今後、円安が進行しすぎれば、景気に大きなマイナス。(せんべい)

技術力のない企業の生き残りが困難になってきていると最近を感じる。顧客の要求は、技術力をベースにしながらも、コンプライアンス、アフターフォローなどの“アナログ”部分に移ってきていると思う。(クレーン・ホイスト)

アベノミクス効果があらわれている。河川工事(公共事業)の土木資材の注文が多くきていて、生産ラインをフル稼働させている。原料の反毛や再生糸が不足しており、値上げ要請もある。(土木資材)

昨年8~9月に増えた受注で、このところ施工が増加、それが売上増につながっている。(ドア特殊金具)

静岡方面から大手企業が来社。先方は「コストだけではなく、これから長くお付き合いをしたい」と切り出した。その会社の周辺は、対応力(技術力)のある中小金型メーカーが激減しているようで、これまで使い捨てにしてきた反動が出ている印象をうけた。金型は産業の要だということに改めて気づき始めているのではないか。やはり、“人財”と技術を残すことが大切。それは大変なことだけれども…。(金型)

円安で原材料が値上がりしていることと、4月からの電気料金の値上げで頭が痛い。(自動車部品)

残業代の削減。さらなる機械化で稼働率がアップした。(精密切削工具)

政府の医療費抑制策で売上げがあまり伸びない。期待できるのは新製品の開発。特長のある新製品開発に注力している。人工歯根インプラントの売上げがようやく伸びはじめた。利益率のよい商品だから期待している。(歯科用材料)

住宅設備機器に関連する段ボールの需要があった。(段ボールケース)

卸売業のお客様

駆け込み需要は見られないが、自動車業界の先行きが心配。(磨棒鋼)

道路関連業界は予算がつき、大変に忙しい状況ですが、人材が不足気味で、せっかくのビジネスチャンスを活かすきれない状態。(道路資材)

新車販売の増加で中古車市場は供給過多。それが中古車の値崩れを引き起こしている。(中古車)

小売業・飲食業のお客様

このさき小売業が厳しくなるのは間違いない。そのなかで、どう戦うかがポイント。より一層アスクルビジネスの拡大をめざす。(事務用品)

総額表示の義務化でとても厳しい思いをしたのに、今さら外税表示可能と言われても困惑するだけ。あの時、義務化されなかったら、今回の消費増税にあたり、どれだけ楽に転嫁できることか。よく考えて物事を進めてほしい。(イタリア料理)

中古のアメリカ車を扱っているが、1月以降、仕入価格が上昇しているため思うように仕入ができない。(自動車)

紳士服の売上が伸びている。(メンズスーツ)

当社のような専門店(路面店)の客層は高齢の方が多く、若い人は大型店やドラッグストアで買物をする傾向にある。40~50年前、岡崎市内には化粧品専門店が50店舗以上あったが、客層の変化や後継者不足(店を継ぐよりサラリーマンへ)で減少。現状、過去の栄光を夢見るのは無理だと思う。(化粧品店)

アベノミクスは期待先行。当社の業況にはプラスに作用していない。(パスタ・デザート)

消費増税前の駆け込み需要が貴金属などの高額品でみられた。しかし、期待したほどではなかった。(百貨店)

建設業・不動産業のお客様

「見積もりに社会保険料(法定福利費)を上乗せして、それを別建てで示した金額を請求し、支払ってもらおうように」

という国土交通省からの要請があった。少しずつだが、元請業者にも理解してもらえるようになってきた。(左官業)

賃金の引き上げ〔アベノミクス〕は、中小企業まで浸透していない。大企業で止まっている。中小企業は依然として苦しい状態が続いており、先行きは不透明。入札に大手企業が踏み込んできて、中小企業が落札しにくい状況。(一般土木建築工事)

駆け込み需要がなくなる4月からは、新規営業が必要になる。(建設業)

消費増税の影響で今後の工事量に不透明な部分がある。人材不足で戦略が立てにくくなっている。(住器設備・トイレ施工)

個人の受注に関しては、消費税を気にして「3月中にお願いしたい」という要望が非常に多い。対応しきれない分は当社が負担して契約している状況。(フロアコーティング)

消費増税にともない、とくに太陽光発電関連の駆け込み需要がある。(鳶・土木工事)

関東や関西のファンド系が名古屋に進出。土地価格を上げている。(不動産賃貸・仲介)

受注が多過ぎて人手が足りない。そのため工事が完了せず、資金が回収できない現場が多い。材料価格が契約時よりも値上がっているため、利益が当初の見込みよりも少なくなってしまう現場もある。(土木建築)

業績が向上しているトヨタ関連企業は、工場補修やメンテナンスなどのニーズが旺盛。(建設)

駆け込み需要で契約金や手付金が増え、一時的に運転資金が潤った。(一般土木)

ダンピング受注は一部に残っているが、全体として収束に向いつつある。人手不足で受注したくても受注できない状況にある。(建設)

運輸業・サービス業のお客様

このさき、取引先である飲食店が来店客に消費増税分を転嫁できるかどうか不安。(おしぼりタオルのレンタル)

少子化の傾向が強まり、同業間競争で経営が苦しくなってきた。(産婦人科病院)

4月からの消費税アップも大変だが、来年10月に予定されている消費税10%への引き上げを心配している。(介護)

期間限定の運送業務が増えている。(運輸)